



タイちゃん だより

本年もよろしくお願いいたします。新年を向かえ、新たな気持ちで頑張りたいと思います。今年度をまとめ、次年度の準備に取り掛かっています。大きな変化を迎える季節でもあります。何事も変化を恐れずチャレンジしていきましょう！



新人研修： 院内留学（10月～12月）

目的：時部署以外の看護実践を知り、
看護の視野を広げる

感想から抜粋

新人：

「自部署の看護に繋がるととても良い経験になりました。」「忙しい中、丁寧に指導していただきました。自部署ではできない体験をさせていただき看護の視野を広げることができたと思います。」

プリセプター：

「手術室見学を通して、術前オリエンテーションが根拠を持ち説明できるようになりました。」「実際に退院指導をした患者さんの在宅生活が見れ、病棟で指導したことが在宅だとどのように行われているかがわかったようです。退院支援で 患者・家族の思いを聞くことの大切さも感じ取れたようです。」

教育委員・指導者：

「大変良い経験だと思う。何回か数部署まわると良いと思いました。受け手も良い緊張感を持って一日過ごせました。刺激をもらえました。」

看護師長：

「様々な看護を提供する方法があると関心を持って戻ってきた。」「興味や、学びたいこと、自部署との繋がり（継続看護）について学べる良い機会であった。」

新人研修： 多重課題 12月1日

目的：日々の看護実践において優先順位をつける能力を養う



新人研修： 受け持ち看護師研修 12月12日

目的：受け持ち看護師の役割を理解し援助ができる

新人研修： 看護に活かせるエンゼルケア

目的：遺族に寄り添ったエンゼルケアができる



リーダーシップ研修



ケーススタディ発表



講演会

看護師としてのキャリアアップについて ～プロフェッショナルを目指して～

演者：黒崎裕也 先生

（長岡赤十字病院 救命旧センターER 救急認定看護師 長岡赤十字DMAT 日本DMATインストラクター 長岡ドクターヘリ フライトナース）

院内の看護職員・医師・コメディカル・地域の看護職員・消防職員・看護学生など、66名の参加者が集まりました。

看護師のキャリアアップに関する事、救急医療、災害医療について講演されました。



院内を回っていると、どんなに忙しくても必ず元気よく声をかけてくれる看護師がいます。当たり前ようですが、その元気な声は気持ちを前向きにさせてくれます。

ある日の午後、繰り返し眼科の手術患者を送迎している新人看護師を見かけました。手術室に入室するとき、病室に戻るとき、声をかけている内容はほぼ同じなのですが、対象に合わせて、声のかけ方が違っていました。ケアの受け手に合わせた看護を実践している姿を嬉しく思いました。



全米・全豪テニス優勝を支えた「チームなおみ」

大坂なおみ選手が、全米オープン・全豪オープンの2大会優勝、そして世界ランキングも1位となりました。

フィジカルとメンタルの強化を支えたのは「チームなおみ」！ スペシャリストの集団がいたから成し遂げることができたのかも知れません。そして、大坂選手自身も、感謝の気持ち、素直さ、謙虚さを忘れない人間的な魅力があるからこそだと思います。 私たちも、チームなおみに負けないチームをつくっていきましょう！

